

# 鮮やかな映像とムービングミラーによる投写を 組み合わせ街中に非日常の没入空間を創出。



高輪ゲートウェイエリアプロジェクションマッピング実行委員会様

## TAKANAWA LIGHT JOURNEY (タカナワ ライト ジャーニー)

導入時期：2026年2月  
導入地域：関東

### 課題

店舗照明があり、湾曲した商業施設の外壁を  
投写面に来場者の目を引く演出を行いたい

### 解決策

高輝度な3チップDLP®方式のプロジェクターと  
ムービングミラーを組み合わせたプロジェク  
ションマッピングを実施。映像出力から演出制  
御までを一体で設計することで、来場者の視線  
を捉える演出表現が可能なシステムを構築

“ムービングミラーの特長を  
活かして映像の世界を拡張  
することで、一層立体感のある  
プロジェクションマッピングを  
行うことができました。”

カラーズクリエーション株式会社  
一般財団法人 プロジェクションマッピング協会  
クリエイティブディレクター 石多 未知行 様

※所属は納入時のものです。

### 概要

#### 「Gateway Park」でプロジェクションマッピングイベントを開催

2026年2月5日(木)から2月11日(水)に、高輪ゲートウェイ駅前「Gateway Park」にてプロジェクションマッピングイベント「TAKANAWA LIGHT JOURNEY」が開催されました。会場では映像と音、照明や噴水が連動する「光の記憶航路—Time Voyage」「The TAKANAWA」の2つのプロジェクションマッピング作品を上映。12日間の会期中には延べ5万人以上が訪れ、空間全体を使った演出による没入体験を楽しみました。パナソニックでは今回、本イベントにおけるプロジェクションマッピングを技術的に支援。活用システムの選定から会場での投写調整・運用まで全面的にサポートしました。

### ソリューション

#### 演出表現を支えるシステムをトータルサポート

36m×7mのメイン映像の投写には、3チップDLP®プロジェクターを4台活用。20,000 lmの投写が可能なDLP®プロジェクターとして世界最小・最軽量※の筐体が、限られたスペースへの設置を可能にしました。投写映像の出力制御にはメディアプロセッサを活用し、音響や照明・噴水など全体の演出を制御するマスターPCから直接コマンドを受け取るシステムを構築。シンプルな構成での運用設計により、現地調整を含めた安定したオペレーションを実現しました。また、国内の屋外プロジェクションマッピングでは初となるムービングミラーを用いた演出システムも導入し、広範囲を映像が動き回る演出を実現。表現の幅を広げ、来場者の関心喚起につながる体験価値の向上を図りました。

※ 2022年10月現在、16,000 lm以上のDLP®方式レーザープロジェクターにおいて、公称の質量および外形寸法値に基づいています。

### イノベーションが起きる新しい街

「TAKANAWA GATEWAY CITY」は、明治5年に日本初の鉄道が開業した際、海の上に鉄道を走らせるというイノベーションが起きた地「高輪」に生まれた新たな街です。2025年3月のまちびらき以降、「100年先の心豊かな暮らしのための実験場」として進化を続けています。

■ 開催場所：高輪ゲートウェイ駅前「Gateway Park」 ■ 開催期間：2026年2月5日～2月11日

■ イベント公式サイト：<https://www.takanawa-projectionmapping.jp/>



# プロジェクションマッピング



▲ムービングミラーを用いてメイン画面の外側の壁や天井、地面にも映像を投写



▲「The TAKANAWA」の1シーン



▲「光の記憶航路-Time Voyage」の1シーン



▲ミラーヘッドを取り付けたPT-RQ35KJ



▲メイン画像を投写するPT-RQ25KJ。会場後方の左右に2台ずつ設置

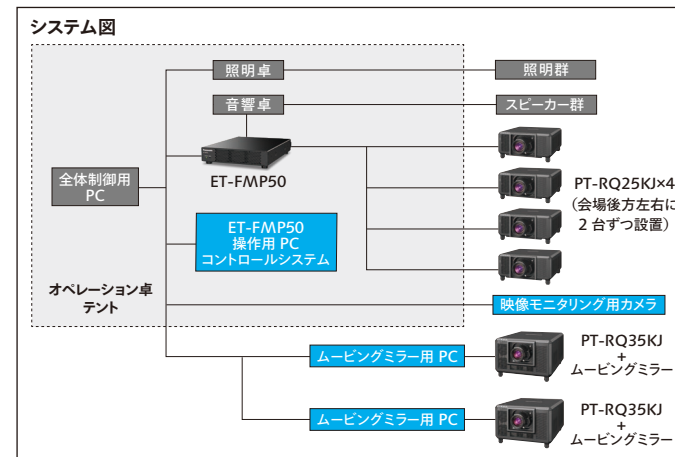
## 投写のポイント

### 新技術「ムービングミラー」を活用し映像の世界を拡張

投写された作品の一部ではムービングミラーを用いた映像演出を採用。PT-RQ35KJのレンズ部にミラーヘッドを取り付け、その動きにより投写映像を移動させる演出を行いました。プロジェクションマッピングのクリエイティブ統括を担当した一般財団法人 プロジェクションマッピング協会の石多様は「高輪ゲートウェイシティは『100年先の心豊かな暮らしのための実験場』として、街の各所で様々な先進技術を活用しています。また、高輪が歴史的にもイノベティブな土地であることから、パナソニックの新技術であるムービングミラーを用いた演出が街自体のストーリーと合致すると考え採用を決めました。今回のコンテンツでは、メイン画面よりも広範囲に投写できるムービングミラーの特長を活かし、映像の世界を拡張して空間の広がりを表現しました。湾曲した壁面・柱に対しても映像を投写したことで、一層立体感のあるプロジェクションマッピングになったと感じています」と話します。

### 複雑な建築形状に対応した高精度な投写設計


投写面としては、TAKANAWA GATEWAY CITY THE LINKPILLAR 1の壁面を活用。高画質で色再現性に優れたプロジェクター4台で大画面映像の投写を行いました。システムの調整・オペレーションを担当したパナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の土橋は語ります。「外壁は奥行きのある3層構造になっており、また建物自体が湾曲していることから非常に難易度の高い投写環境でした。現場では自動キャリブレーションなどの投写調整が可能な無償ソフトウェアも活用し、幾何学補正や歪み補正のためのマスキング処理などの調整を行いました。基準となる観覧場所を設定しつつ、その他の場所から見た際も映像として成立するように調整を施し、複雑な形状の36 m × 7 mの大画面への投写を実現しました」また、ムービングミラーを加えた演出についても、従来のワークフローの延長で対応可能な構成とし、今後も様々な空間演出への展開が期待されます。



## イベント主催者様の声

### 街の賑わい創出につながるイベントを実施できた

本イベントは、高輪の魅力の発信、東京の夜間観光のさらなる振興を目的に、港区や観光協会、民間事業者などと一体となって実施したものです。短期間での推進となりましたが、プロジェクター技術などのエキスパートであり経験豊富なパナソニックさんの実施体制は、非常に安定感があると感じました。会場は、投写面の周囲に商業施設の照明があるなど比較的明るい環境でしたが、高輝度プロジェクターにより色鮮やかな映像投写を行え、また、ムービングミラーならではの空間をダイナミックに活用する演出も組み合わせることで、一味違うプロジェクションマッピングを実現できました。来場者アンケートでは、映像が美しく華やかな演出だったとお声もいただいております。本イベントを通じて普段とはまた違った街の表情をお楽しみいただけたのではないかと思います。今後も引き続き、ナイトタイム観光の一層の充実を図り、観光消費の拡大による経済の活性化を目指してまいります。（高輪ゲートウェイエリアプロジェクションマッピング実行委員会 ご担当者様）



**コンテンツプロデュース担当**  
 カラーズクリエイション株式会社  
 一般財団法人  
 プロジェクションマッピング協会  
 クリエイティブディレクター 石多 未知行 様

※所属は納入時のものです。



**システム設計・運用担当**  
 パナソニック プロジェクター &  
 ディスプレイ株式会社  
 マーケティング本部 営業推進部  
 AVコンサル課  
 土橋 伸浩

※所属は納入時のものです。

**納入機器**

- 3チップDLP®レーザープロジェクター PT-RQ35KJ ×2台
- 3チップDLP®レーザープロジェクター PT-RQ25KJ ×4台
- ムービングミラー ×2台
- ズームレンズ ET-D75LE30 ×2台 (PT-RQ35KJ用)
- ズームレンズ ET-D75LE40 ×4台 (PT-RQ25KJ用)
- メディアプロセッサー ET-FMP50 ×1台
- Visual software Suite



納入会社：パナソニック コネクト株式会社 現場ソリューションカンパニー

発行：パナソニック プロジェクター & ディスプレイ株式会社  
 〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号

その他の納入事例に関しては、ホームページをご覧ください。

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>

